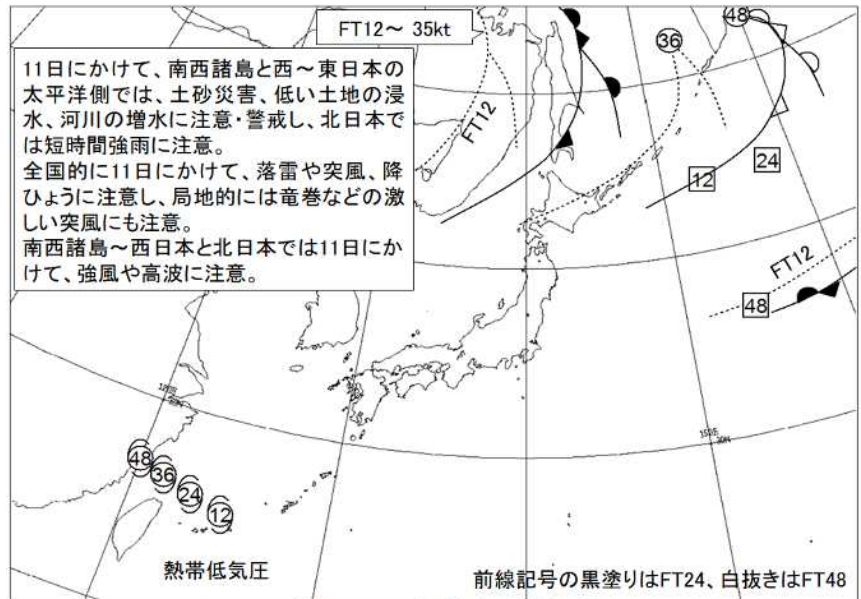


1. 実況上の着目点

- ① 沖縄近海を熱帯低気圧が西北西進。熱帯低気圧周辺の下層暖湿気の影響で、南西諸島と西～東日本の太平洋側では、大気の状態が不安定となり、雷を伴い激しい雨を解析。
- ② 500hPa 5880m 付近で-6℃以下の寒気を伴うトラフが日本の東を東進。アリューシャンの南～日本の東にのびる前線近傍では、大気の状態が不安定となり、活発に発雷、猛烈な雨を解析。
- ③ 500hPa 5460m 以下の寒冷渦に対応して、前線を伴った低気圧がアムール川中流域を東北東進。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の熱帯低気圧は、11日にかけて東シナ海を西北西に進み、その後華南に進んで不明瞭になる。熱帯低気圧周辺の下層暖湿気、日射による昇温の影響が加わり、南西諸島と西～東日本の太平洋側では、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴った激しい雨や非常に激しい雨が降り大雨となる所がある。また、熱帯低気圧周辺では気圧の傾きが大きくなり、やや強い風や強い風が吹き、波が高くなる所がある。11日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、強風や高波、落雷や突風、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。
- ② 1項②のトラフと前線は10日夜にかけて日本のはるか東へ進むが、東日本～東北地方の山沿いでは11日にかけて、太平洋高気圧の縁を回る下層暖湿気や日射による昇温の影響で、雷を伴った激しい雨が降り大雨となる所がある。落雷や突風、短時間強雨に注意。
- ③ 1項③の低気圧は、11日にかけて閉塞しながらオホーツク海に進む。また、11日は、朝までに閉塞点上のオホーツク海で発生する低気圧がカムチャツカ半島へ進み、寒冷前線が北海道地方を通過する。前線近傍では、上空寒気や前線に向かう下層暖湿気の影響で大気の状態が不安定となり、雷を伴い激しい雨が降って大雨となる所がある。また、気圧の傾きが大きくなり、やや強い風が吹いて、波がやや高くなる所がある。落雷や突風、降ひょう、短時間強雨、強風に注意。
- ④ 500hPa 5940m 以上の背の高い高気圧が、11日にかけて本州付近に停滞。東北地方と西～東日本では、晴れて気温が上昇し猛暑日となる所がある。熱中症に注意(熱中症警戒アラートを参照)。
- ⑤ 9日21時にマリアナ諸島で熱帯低気圧が発生した。最新の情報に留意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

- 4. 防災関連事項【量的予報等】** ①雨量(06時からの24時間)：九州南部120、東海・四国100mm。②波浪(明日まで)：奄美3m。③高潮(明日まで)：東日本では注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。